



☆RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、乳児期、特に生後数週間～数ヶ月の子どもは重症になることがあるため、感染しないように注意してあげてください。

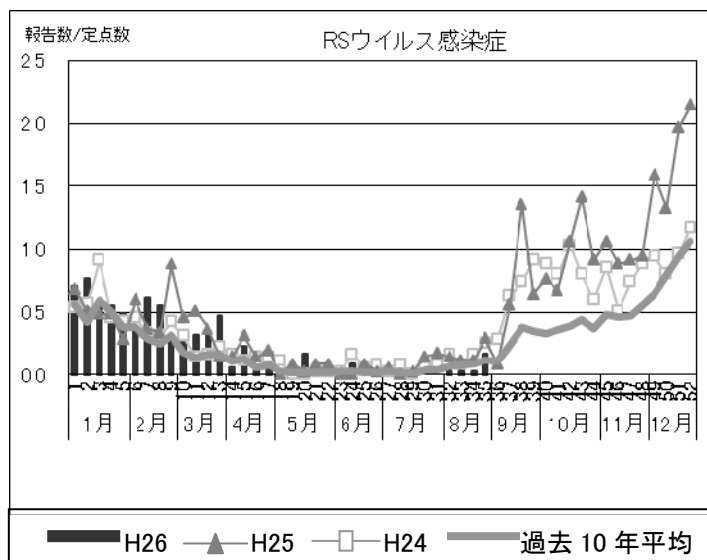
RSウイルス感染症とは

RSウイルス感染症は、発熱、鼻水から始まり、更に咳、ゼーゼーという喉（のど）の音、肺炎と進行します。年長児や大人では軽い風邪症状程度ですむため感染している事がわからないこともあります。

RSウイルスに対する免疫は長く続かないため、年齢に関係なく、生涯にわたって何度も感染します。また、生後1歳までに半数以上が、2歳までに100%が感染するとされています。

奈良県でも、近年9月から患者報告が急増してきます。これから冬に向けて注意が必要です。（右グラフ）

奈良県内のRSウイルス感染症報告状況



RSウイルスはどこから？

咳やくしゃみで飛び散るしぶきを吸い込む**飛まつ感染**や、感染している人との直接の**濃厚接触**や、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、おもちゃ、コップ等）を触ったり又はなめたりすることによる間接的な**接触感染**で感染します。

予防のために

RSウイルス感染症の患者の多くは0歳児と1歳児です。またRSウイルス感染症であると気付かない年長児や大人が存在しています。咳をしている年長児や大人は、可能な限り0歳児と1歳児との接触を避けることが大切です。また、咳などの呼吸器症状がある場合は**飛まつ感染対策**としてマスクを着用し咳エチケットを守る事、**接触感染対策**としては、流水・石鹸やアルコール製剤による手洗い・消毒や子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどをこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒する事をお勧めします。

大人自身も健康に気を配り、家庭に感染症を持ち込まないことが、子どもを感染症から守ることに繋がります



(感染症情報センター)